平成24年度 和歌山県名匠

【能面師】

久保博義

（号　博山）

【現 住 所】和歌山市
【生　　年】昭和15年

業績及び経歴

和歌山県立和歌山工業高等学校で教鞭をとる傍ら33歳のときに、大阪府箕面市の能面師、摂津一観師のもとで修行を始める。師没後、能面文化協会代表となり、能面制作に励む一方、指導的役割も果たすようになる。

能面制作は、まず始めに檜角材を面型に型どり、輪郭や目、鼻、口等の概略を叩きノミで彫る「荒彫り」をする。次に正確に細かく彫り起こす「小作り」を経て、形を作っていく。その後、日本画に使用する胡粉を膠液で練った胡粉液を塗り、乾いたら表面を磨く。塗りと磨きを何度か繰り返し、滑らかになったら、胡粉液を「顔料」で着色したもので「上塗り」を行い、「毛書き」等を施す。最後に、自然な古い色調にするため、囲炉裏のあった古民家の天井付近から取り出した煤を煮詰めた液で古色を付ける。確かな技で制作された能面は高く評価され、能楽師の小林慶三師、松井彬師や金春欣三師により能舞台で使用されている。

紀州東照宮の春の例大祭（和歌祭）の「面掛行列（百面）」で長く使用され、破損が目立っていた古面の修復や、古面を保存するため、新面を奉納するとともに、「雑賀踊」の演者自身による「鬼面」制作の指導にも尽力している。また、国内及び海外での能面展示、講演を積極的に行っている。このように日本の伝統文化である能や能面の普及、文化財の修復・保存に果たしている功績は多大である。